

令和4年度（2022年度）第2回  
箕面市立図書館協議会会議録

箕面市立図書館

- 1 日 時 令和5年(2023年)2月21日(火)  
開会 午前10時 閉会 午前11時30分
- 2 場 所 箕面市立中央図書館 2階 視聴覚室
- 3 出席委員 渡邊 智山 会長  
五十嵐 直人 委員  
森 美由紀 委員  
小山 清香 委員  
太田 香菜子 委員
- 4 傍聴者の有無 なし
- 5 出席職員 大迫 美恵子 中央図書館長  
坂上 未希 西南図書館長  
小松 紀子 小野原図書館長  
赤澤 久弥 船場図書館長  
宮本 尚也 中央図書館参事  
神下 達也 中央図書館職員
- 6 議事日程
- 日程第1 (案件第1号)
- 大学連携講座について  
→船場図書館及び西南図書館での大学連携講座について各館長より報告。森委員よりボードゲームを活用した取組について説明。  
意見交換
- 日程第2
- その他

## 【会議次第】

### 日程第1（案件第1号）

#### 大学連携講座について

事務局より大学連携講座についてご意見いただきたい趣旨の説明。  
船場図書館長より、令和4年度船場図書館実施事業について報告。

- 会 長： 船場図書館からの取組事業の報告があった。事務局より大学連携講座について継続して実施したい旨の説明もあり、忌憚のない意見、質問をいただきたい。何かあるか。
- 委 員： 大阪大学夏まつりの企画以外の講座については申込方法が当日先着順であるが、申込状況はどうか。先着順の場合、現地に赴いてから参加できなかった場合が困る。先着順よりも申込制の方が参加しやすいのではないか。
- 事務局： 現在までに実施した講座において、定員を超えた申込がなく参加を断った事例はない。講座の開催時間の少し前に来られると良い。感染拡大予防対策として参加者数を調整するために定員制としている。
- 委 員： 大人向けの講座は事前申込制で子ども向けの講座は当日先着順ということか。
- 事務局： 大人向けの講座については楽器を演奏する関係上、区切られた空間での実施となるため、事前申込制とし参加者数を制限した。
- 委 員： 大人向けの講座は大阪大学内で広報しているが学生も対象か。
- 事務局： その通りである。  
子ども向けの企画について、申込を先着順とするか申込制とするかについては、図書館でも検討しているところである。
- 委 員： 申込制の場合、当日急遽参加できなくなる恐れはある。
- 事務局： 先ほどのご指摘通り、先着順の場合当日来館しても参加できない恐れもあるので悩ましいところである。
- 委 員： 子連れの場合、事前に申し込みしても参加できない場合も多いと思うので先着順の方が良いかと思う。
- 会 長： 申込の受付方法については迷うところではある。先着順の場合に、定員に達しているかもしれないのでやめようという声をできるだけ減らすようなアイデアが必要ではないか。例えば、定員に余裕を持たせて、定員を超えても支障のないように募集をかけても良いと思う。図書館の都合ではなく参加者のニーズを拾い上げる形で継続して実施していくことを求めたい。
- 委 員： 子どもが3人いるが、子ども向けのイベントが夏休みなどの長期休暇期間中に実施されていない。長期休暇中にこのようなイベントがあればもっと参加し

やすい。

事務局： 大阪大学学生の活動期間の関係上、長期休暇期間でのイベントが実施できていない。市民向けのイベントであるため、貴重なご意見として今後の企画に向けて検討する。

委員： 箕面市の小、中学校の夏休みは、7月20日が終業式、8月25日までが夏休みとなっている。

船場図書館が大阪大学と隣接する立地を活かし、大学行事の企画として子どもたちが参加できる場があるということが良い。図書館と大学の相互にメリットがある。

小学校には、外国にルーツを持つ子どもが増えつつある。大阪大学外国学図書館の蔵書も市立図書館の蔵書と同じように小、中学校でも配本により利用できるよう検討していただきたい。

会長： 今のご意見に対して何かあるか。

事務局： 大学の方針として地域貢献を掲げており、図書館がその窓口として活用されることはありがたい。

図書の配本について、学校にない本について市立図書館から提供する学校への連絡便と、船場図書館を含めた市立図書館間の連絡便はすでにある。市立図書館から学校への連絡便に大阪大学外国学図書館蔵書をのせても良いのであれば、大阪大学蔵書の提供は可能であるが、現状は実現していない。

委員： 学校と市立図書館の間では容易に本のやりとりができていますが、それに併せて学校と大阪大学との直接のやりとりができるようになると便利である。

事務局： 船場図書館の開館以前から、市立図書館と大阪大学外国学図書館間で協定を結んでおり、市民の方には大阪大学外国学図書館蔵書を提供していた。大阪大学としても外国にルーツのある子どもへの支援の必要性は認識しているので、学校にも提供ができるよう検討していく。

委員： 図書館活用講座について、6月実施分は定員を超えた申込があり図書館の活用方法に需要があるという認識である。2月実施分について申込状況はどうか。

事務局： 最新の数値を把握しておらず、お答えできないが、6月実施時に定員を大幅に超えた申込があったため、8月実施分からは定員を増やした。

委員： 申込者の年齢層はどうか。

事務局： 基本的には60代以降が多いが、40代、50代の申込もある。

会長： 国際色豊かなイベントを実施しており、学びのプログラムとして評価したい。生涯学習の場として継続して実施していくことを求める。

なお、社会問題と関連付けて、日本語を学ぶことが難しい子どもや社会に居場所のない子どもたちをサポートしていくプログラムがあると良い。広く学びの場を提供する図書館として発展していくことを期待する。

- 事務局： 他言語の子どもの本について、大阪大学にもあまり所蔵がない。多言語の絵本は入手がしにくいですが、情報を集めながら、船場図書館も含め少しずつ蔵書を増やそうとしているところである。
- 会長： 購入対象として、他言語の漫画本についてどのように考えているか。
- 事務局： 他言語の漫画本については今年度検討していた。主に入手可能なのは英語、フランス語のものであった。
- 会長： 他言語の絵本についてはどうか。
- 事務局： 他言語の絵本は国内での流通が少なく入手が困難であるため、今後の課題であると認識している。
- 委員： アジアの漫画などは現地での入手は容易である。外国語学部の教授が各国を訪れた際に調達は可能か。
- 事務局： 現状は新型コロナウイルス感染症の影響により、大学教授も海外に出張に出向くことが困難である。今後継続して検討していきたい。
- 会長： 今後、検討をお願いする。

- ・西南図書館長より、令和4年度西南図書館実施事業について報告。
- ・森委員より、近年、公立図書館におけるボードゲームの活用について、海外と日本の取組み状況について、具体的な事例を挙げて報告された。

- 会長： 非常に密度の濃いお話を聞かせていただき我々も学びとなった。図書館におけるボードゲームの取り扱いについて意見はあるか。
- 委員： ボードゲームが娯楽ではなく文化的なものであるということは今の説明を聞くと理解ができる。ただし、日常生活の中でそこまで理解のある保護者がどこまでいるか疑問である。ボードゲームを通して子どもたちがコミュニケーション能力を高めたり、各国への理解につながるということはすごくよいことであるが、ボードゲーム体験を通しての経験がボードゲームを楽しむことまでで止まってしまうのではないか。ボードゲームを楽しむための場の提供だけでなく、ボードゲームを通じて各国の背景まで理解を深めることができれば、図書館でボードゲームを活用していくということに賛成である。
- 会長： 今の意見についてコメントはあるか。
- 事務局： ボードゲーム体験の中では事前に学生によるレクチャーがあり、各国の特徴についての説明があった。世代が違っていても、ボードゲームを通じてコミュニケーションを図れることが図書館としてもよいと考える。
- 会長： 図書館でボードゲームを活用するということの理念が明確でないように思われる。この取組みが図書館で実施しなければならない必要性について疑問が

残る。しかしながら、逆に理念がはっきりしているのであれば、広い意味での学びにつながるという意味で、取り組む価値があるとも言える。国内、海外を含めなぜ図書館がボードゲームの活用に取り組んでいるのかを森委員にご教示いただきたい。

委員： 海外ではボードゲーム自体が文化の一形態として捉えられており、公共図書館が情報や文化を共有することは図書館の使命と考えられている。そのような状況のため、海外では当たり前のように提供されている。日本の公共図書館では、ボードゲームを賑わいの場の中心や読書に関心のない子どもたちを図書館に呼び込むための呼び水として、それ以降の読書推進へとつなげることが狙いとされている。

会長： ボードゲームを体験して「楽しかった」という感想のみで終わらないような、周知の仕方が必要である。海外では図書館がコミュニティ再生のための中核に位置づけられることがあるが、箕面市においてなぜ図書館でボードゲームのプログラムを実施するのかという理念を明確にすることを求める。

委員： ボードゲームは文化を知るきっかけや図書館利用のきっかけとなると考える。おそらく学校で同じようにボードゲームを活用しようとしても難しい。図書館で落語を実施することで古典や歴史への興味関心を引くのと同じように様々な図書館利用への入り口を用意するのは良いことだ。

経済格差によって他の子と同じような体験ができない子どもへのセーフティネットとして図書館が機能することが望ましい。

学校としても不登校の子どもを減らしたい。社会的な自立のため、学校に来ずとも、図書館を社会参加の場とすることができれば実施していただきたい。

会長： 図書館がフリースクールのように子どもたちの受け皿となるなら、ボードゲームの活用にも賛成である。

委員： 当初は図書館とボードゲームの関係については不明であったが、説明を聞いて参加したいと思った。

会長： ボードゲームプログラムを開催する理念を改めて熟慮していただきたい。

事務局： 図書館としてもただ楽しいのみで終わらせないための意見をいただきました。図書館として取り組むべき事業としていきたい。

委員： 今後実施予定はあるか。

事務局： 未定であるが来年度に実施を検討している。

委員： 広報について、広報の対象が3校であったがなぜか。

事務局： 市の広報やホームページでは市全体に広くお知らせしている。チラシの配布については上限人数を設けているため、近隣の小中学校に限定した。

委員： 近年、コロナ禍による人間関係の疎遠化も指摘されているが、ボードゲームを

通じて、相手を知ることができ、人と人をつなぐきっかけともなった。文化体験のギャップを取り払うものとしても取り組んでほしい。

会 長： 西南図書館の取り組みだけでなく、船場図書館の取り組みも含め、箕面市立図書館として、新たな取り組みを率先して実施してほしい。公共図書館にコミュニティ再生や社会参加の場という機能を持たせる手段としてのボードゲームやカード等ならば、取り組んでもよいと考える。大切なのは、常に学ぶことができる環境であるため、多様なプログラムを開催する頻度を高めるようお願いしたい。

## 日程第2（案件第2号）

その他

- ・オーサービジットの実施について報告
- ・移動図書館の廃止について報告

会 長： 今の報告について何かあるか

委 員： 移動図書館車はどうするのか。

事務局： 公売を予定している。

会 長： 3月25日に開かれるレゴ部のイベントはどのように開催に至ったのか。

事務局： ホームページ等で大阪大学の団体を調べ、連絡を取った。

現在実施している落語会については、西南図書館の貸館を利用している大阪大学の学生団体に図書館から声をかけて開催に至った。

会 長： 様々な団体が高頻度で学びの場に関われるようになることが望ましい。

以上でもって本日の会議を終了とする。